

1. 評価結果概要表

作成日 2007年5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0873500144
法人名	株式会社 シルバーライフサポート木の実
事業所名	グループホーム 木の実
所在地 (電話番号)	茨城県日立市十王町友部東2-1-19 (電話) 0294-39-6841

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年5月15日	評価確定日	平成19年11月6日

【情報提供票より】(平成19年4月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤3人, 非常勤14人, 常勤換算8.4人	

(2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄骨 造り	
	3階 建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4)利用者の概要(4月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	福島クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR十王駅から徒歩1分にある、ビルを改装して作られたホームである。介護保険制度開始に伴い当初は訪問介護事業から開始したが、その中で軽介護者であっても安心して生活できる場所がほしい、という利用者及び家族からの要望を受けて平成15年に開設されたホームである。管理者は認知症ケア専門士の資格を有し、利用者の個別の状態に合わせたケアについて熱心に取り組んでおり、その思いは職員にも確実に伝わっている。駅の近くという面もあり、利用者は日頃の散歩を通して近隣住民と多く接している。地元の方がバスの待ち時間を利用して、入居されている友人に面会に来ることもあるという、自由な雰囲気にも包まれたホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を受けて、家族や行政への積極的な働きかけや、工夫を凝らした居室の雰囲気作りなど、改善へむけた努力の成果が数多く見ることができた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や職員は、地域密着型サービスの充実に向け、新たな理念の構築を話し合いのもと進めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>前回の外部評価結果やホームの活動状況の報告を中心に、行政や家族、地域の人の意見交換を行なっている。そのことにより、ホームへの理解が深まってきている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>3ヶ月ごとに家族会を開催し、個別の話し合いの時間を設けている。また、管理者や職員は面会のたびに家族へ状況報告を行い、意見交換を行なっている。その意見は、サービス計画に反映されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の小学校や保育園を訪問したり、社会福祉協議会や民生委員に働きかけ、地域のボランティアを多数受け入れている。地域の消防署の協力を得ながら防災訓練を行ったり、日課である散歩を通して近所の人たちとの交流など、さまざまな場面で地域との連携を図り、ホームに対する理解を得ている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本年度より地域密着型サービスになった点をふまえ、地域を意識した理念の見直しを全職員で検討している。		職員との意見交換を活発に行い、地域密着型サービスとして相応しい理念の作成が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全スタッフが共通理解し、実践していけるよう会議などで話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りに参加している。保育園や小学校の運動会の競技に参加し、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者および職員は、自己評価・外部評価の意義を理解し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者や民生委員の他に、近隣住民や利用者・家族で構成された会議を定期的に行っている。		

茨城県 グループホーム 木の実

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	ホームはグループホームに関する最新情報を、市町村との電子メールのやりとりにより得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	ホームは3ヶ月ごとの家族会や家族の面会時に利用者の状況などを報告している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	年1回家族アンケートを行い、家族等の意見や要望を伝えてもらっている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	管理者は職員の離職を防ぐために、日頃から職員の話をよく聞くように心がけている。また、管理者、計画作成担当者、ユニット長が異動する際は、家族に通知し報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	年間の研修計画書を作成し、可能な限り全職員が研修へ参加している。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	社会福祉協議会が主催する会合などに参加するのみで、県の連絡協議会には参加していない。	○	地域の同業者との交流する機会を増やすため、積極的に市町村へ働きかけることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの体験利用により、安心して利用が開始できる体制ができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との日々のかかわりの中で、感謝の気持ちをもつことの大切さなどを理解している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	前回の外部評価、自己評価をふまえ、利用者の思いや意向の情報収集に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン会議野中で全職員が話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度を目安にケアプラン会議を開き、全職員の意見によりモニタリングを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階の空きフロアに地域の方との交流スペースを設置する予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が往診の予定日を理解しているくらい、頻繁に協力医院の医師が訪問している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは利用者や家族等の希望を受けて、方針決定の話し合いを行っている。		今後はホームが対応しうる最大のケアについて、全職員で話し合いガイドラインの作成に取り組むことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーを尊重する対応を行っていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースを理解し、尊重していた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者や職員は同じテーブルを囲み、笑顔で食事を楽しんでいた。また介助が必要な方には、さりげないサポートを行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前回の外部評価を受けて、利用者に希望の入浴時間の聞き取りを行っていた。それにより、利用者の要望に応じた入浴の提供ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	前回の外部評価を受けて、利用者の生活歴の把握に努めている。職員は利用者のできそうなことをお願いして、利用者の生活場面の拡大を目指している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は皆散歩が大好きであり、職員はそれをサポートしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	館内は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃より避難訓練などを行っている。地区の社会福祉協議会と災害対策について話し合いを行っている。		大規模災害発生時の地域の救援拠点として、必要な備品の確保等が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表に摂取量を記録している。水分量については介護計画にも取り上げ、標準値以下の利用者には個別チェック表を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回の外部評価を受け、家庭的な雰囲気がつくれるよう取り組みの様子が確認できた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室になじみの品を持ち込んでいただき、利用者が居心地よく過ごせるよう家族へ働きかけを行っている。		